

曾於文藝

うたごよみ

俳句

末吉俳句会

やはらかき風に色添ふ春の苑

古藤 まゆ美

花は咲き鳥は歌ひて句を作る

瀬戸内 紀子

廃線に沿うて満開花並木

西村 セツ

大陽俳句会

菜の花の香り懐しき夕べかな

岩重 みどり

よく笑ふ姉妹そろひて青き踏む

福村 よう子

転た寝の夢の中へと春の雷

逆瀬川 節子

短歌

末吉短歌会

久に逢ふうから集へば過去形の
堂々巡りの会話が続く

森岡 ちどり

題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

咲き満ちしにほひすみれの風に揺る
逢ひの叶はぬ幼のリボン

長倉 佳津子

眼帯をとれば飛び込む山々の
グラデーシヨンの青の重なり

宝蔵 弘二

大陽短歌会

兵役の日々もありたり生き残り
九十六歳の春が近づく

米澤 正敬

野兎が草踏みたおしたる道のあり
飼料畑に棲家を作る

安藤 フヂ子

団塊のじいじばあばを闊歩させ
シニア料金甘くささやく

西山 美代子

財部短歌会

山小屋の朽ち木の匂ひにふと思ふ
終戦まぢかの命の豪を

井上 澄子

すっぽりと強気寒気の傘の下
銀世界と化す朝の薩摩路

杉村 リカ

同窓の死を市報に見る令和なり
コロナ禍生みたるいま家族葬

児玉 次雄

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

十六で 散つた予科練

鈴木 一泉

最早桜 厄介なコロナ

古川 一幹

コロナ奴 桜イベント

浜田 一好

桜見い 様子マスクじやが

桐野 奈世

大陽薩摩狂句会

終息らん コロナ五輪が

津留 群志

心配な事

小倉 りんりん

婆ん百寿祝 首相い成い切っ

小倉 りんりん

読ん表彰状

境 すやすや

境 すやすや

あんほらち 一向進まん

西山 美代子